

令和4年度
(2022年度)

市立ひらかた病院の取り組み実績

<部長の方針・考え方>

本院は「心のかよう医療を行い、信頼される病院」を基本理念に掲げ、患者の皆さんや地域の皆さんとの信頼関係を築き、安心と満足を得られる質の高い医療を提供することで地域に貢献するよう努めています。

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の先行きが不透明な中、引き続き“コロナ対応と通常診療の両立”を基本方針に、北河内医療圏における唯一の感染症指定医療機関かつ市立病院として、新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、救急医療や小児医療、災害医療などの政策的医療を提供しつつ、最先端医療機器の整備など、アフターコロナに向けた医療体制の充実を図っていきます。

また、今後5年間を見据えた新たな中期経営計画を策定し経営改善に取り組むなど、持続可能な医療提供体制の確立に向け、病院経営の健全化に取り組んでいきます。

重点的な取り組み：新型コロナウイルス感染症への対応

本院では、新型コロナウイルス感染症の発生以降、北河内二次医療圏における唯一の感染症指定機関として、感染の拡大状況に応じ、適宜受入れ病床を拡大するなど、多くの感染症患者を受け入れるとともに新型コロナウイルス感染症に特化した診療を行う発熱外来の設置など、感染患者に対して適切な医療を提供するよう努めてきたところです。

今後も引き続き、感染拡大時であっても適切に対応すべく、医療体制の整備を図りつつ医療材料等の物資の確保にも努めるなど、市民等の安全確保に貢献していきます。

また、新型コロナウイルス感染症への対応が長期化し、職員の心身への疲労が蓄積していることに鑑み、引き続き積極的なメンタルヘルスケア対策を講じていきます。

あわせてこれまでの経験を次に活かしていけるよう、課題整理及びその対応策の検討にも取り組んでいきます。

実績	①感染拡大に応じた感染患者の受入れ拡大及び適切な医療の提供体制の構築 ②医療体制の整備、医療物資の確保 ③メンタルヘルスケア支援チームを設置、個別面談及び研修会を実施
説明	①本院では、感染の拡大状況に応じて、一部一般病棟の閉鎖やゾーニングの徹底など様々な措置を講じて受入れ病床を確保・拡大し、増加する入院患者に対応してきました。外来においては発熱外来を設置し、また、院内に各種検査機器を導入して迅速で且つより多くの方に検査が実施できるよう対応するなど、適切な医療を提供すべく取り組みました。 ②国・府の補助金を活用し、人工呼吸器・簡易陰圧装置の追加導入等、感染症患者受入体制の整備を図るとともに、検査試薬、マスク・ガウン等衛生材料等の安定的な確保に努めました。 ③新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、未知の感染症により不安や恐怖感など緊急時的なストレス反応を起こしやすくなる状況の中、本院職員がこころの健康を維持するために、衛生委員会の作業部会として職員のメンタルヘルスケアの支

	援に取り組むことを目的に設置しました。ストレスへの対処法やメンタルヘルスに対するセルフケア方法等に関する情報発信を行うとともに、メンタルヘルス不調の未然防止のため、健康チェックを実施、希望者に産業医面談を実施しました。
--	---

重点的な取り組み：地域連携のさらなる推進

地域医療支援病院としての役割を果たしていくため、引き続き、地域の診療所への訪問を計画的かつ積極的に行うことで紹介患者の増加に努めつつ、紹介率及び逆紹介率の向上について職員意識徹底を図るなど、地域の医療機関との業務連携の更なる強化に取り組めます。

実績	<p>①地域の医療機関への計画的かつ積極的な訪問活動による連携関係の強化（249件／年）</p> <p>②紹介率・逆紹介率の維持・向上（紹介率 72.4%（R3）→73.9%（R4）前年度比 0.5%増、逆紹介率 87.6%（R3）→82.6%（R4）前年度比 5%減）</p> <p>③登録医療機関の確保（総計 327 件 前年度比 64 件増）</p>
説明	<p>地域医療支援病院として地域の医療機関に対し、地域医療提供体制における医療機能の役割の相互理解と連携強化を図るため、計画的、積極的な訪問活動を行うとともに、「断らない医療」への取り組みを進め信頼関係づくりを図りました。これらの取り組みにより、コロナ禍においても紹介率の維持・向上につながるとともに、新規の登録医療機関を確保することができました。逆紹介率については、前年度と比べて5%減少しましたが、地域医療支援病院の承認要件を満たしています。</p>

重点的な取り組み：診療体制の充実

これまで令和元年度に“消化器センター”、令和2年度には“下肢機能再建センター”を開設し、診療体制の充実を図ってきました。引き続き地域の診療所へのPR等の積極的な情報発信により、本院の強みとして更なる集患に繋がるよう努めていきます。

さらに、新たな治療方法の導入や医療スタッフの育成にも努め、医療の充実を図ります。

実績	診療体制充実のための医師の確保
説明	<p>これまで、「消化器センター」や「下肢機能再建センター」の開設による医師の確保を行い、診療体制の充実に努めてきました。今後も引き続き、大阪医科薬科大学に対して積極的に医師の派遣を要望するなど、本院がより良い医療を継続的に提供するために必要な医師の確保に努めていきます。</p>

重点的な取り組み：新たな経営計画の策定

令和3年度に終期を迎えた「市立ひらかた病院改革プラン(第2次中期経営計画)」について、取り組み成果の検証と、令和4年3月に策定された、国の「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を踏まえ、新たな経営計画を策定します。

新たな計画の策定に際しては、将来的な医療需要を踏まえ超高齢社会にも耐えうる医療提供体制を構築するために国や大阪府で議論されている“地域医療構想”の動向も踏まえつつ、医師の働き方改革や新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取り組みなど、医療を取り巻く中長期的な動向も見据え、本院が将来にわたって地域住民に必要な医療を提供していくための今後5年間の必要な取り組みについて検討していきます。

<p>実績</p>	<p>市立ひらかた病院経営強化プラン(第3次中期経営計画)の策定</p>
<p>説明</p>	<p>令和5年3月に、令和5年度から令和9年度までの5年間を計画期間とする「市立ひらかた病院経営強化プラン(第3次中期経営計画)」を策定しました。計画においては、現在の経営形態を維持するとともに、「政策的医療を提供する急性期病院」として、地域の回復機能・慢性期機能を担う病院や診療所との連携体制による医療完結を目指していくこととしています。なお、国や大阪府で議論される地域医療構想が示され、策定内容との整合性を図る必要などが生じた場合には、地域ニーズ等の状況を見極め、経営強化プランの見直しを図っていきます。</p>

重点的な取り組み：最先端医療機器の整備

本院では、従来の開腹手術とは異なり、低侵襲な「腹腔鏡手術」を多く実施することで、術後の傷跡が目立たない、早期回復が見込めるといった患者さんの心身の負担軽減に努めてきました。

近年、この「腹腔鏡手術」の特性を生かしつつ、ロボットの支援機能によって、これまで腹腔鏡手術が困難であった部位への手術が可能となる「ロボット支援手術」の導入が進んでいることから、本院においてもこれを導入し、これまで以上の幅広い疾患に低侵襲な医療を提供するとともに、最先端医療を有することを本院の強みとして人材確保や集患に繋げていきます。

<p>実績</p>	<p>内視鏡手術支援ロボットの導入</p>
<p>説明</p>	<p>内視鏡手術支援ロボットについては、従来の腹腔鏡手術では困難であった部位など幅広い疾患に低侵襲な医療を提供するとともに、最先端医療を有することを本院の強みとして人材確保や集患につなげ、地域医療の中核病院としての役割を果たすことを目的として令和4年5月に導入しました。</p> <p>令和5年7月から消化器外科、泌尿器科、産婦人科で手術を開始しており、対応疾患の拡大に向け取り組みを進めていきます。</p>

重点的な取り組み：新たな情報発信事業の強化

積極的な情報発信によって地域住民や地域の診療所からの信頼感や安心感の向上に繋げていくため、民間のノウハウを活用した情報発信事業を開始します。

ホームページについて、地域の医療機関との連携機能の付与など利便性の向上を図りつつ本院の魅力や強みが効果的に PR できるよう魅力的なページにリニューアルするとともに、これを冊子やパンフレット等とも連動させた、一体的な事業として展開します。

実績	①市立ひらかた病院ホームページおよび看護局ホームページのリニューアル ②各種冊子やパンフレットの作成
説明	①市立ひらかた病院のホームページおよび看護局ホームページをリニューアルし効果的な情報発信を行うための取り組みを進めました。 ②ホームページのリニューアルとともに、内容を連動させた病院案内パンフレットや看護師採用パンフレット等を作成しました。

重点的な取り組み：院内ネットワーク整備

電子カルテシステム及びインターネット環境などのネットワーク機器の保守期限が令和4年10月となっていることから、機器の更新・整備を行うとともに、これにあわせて外来待合や病室でのインターネット環境の整備を進め、患者サービスの向上に努めます。

実績	①ネットワーク機器の更新・整備 ②全館無料 Wi-Fi の導入
説明	①安心して医療サービスが受けられるようネットワーク機器の更新・整備を行い、脆弱性の解消やセキュリティ強化、医療情報システムの安定性向上などを図りました。 ②患者サービスの向上の観点から、インターネット環境 (Wi-Fi) を整備し、令和5年4月から全館無料での運用を開始することとしました。